



タキイ交配

ナス

「P C お竜」



栽培型	12月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
ハウス												
トンネル 露地早熟												
露地抑制												

単為結果性で着果促進処理が不要！ 低温期でも着果のよい超極早生の長卵形ナス！

ハウスにおけるナス栽培では、着果促進剤の施用（ホルモン処理）や、交配用のハチを用いた虫媒受粉による着果処理を行うのが一般的です。しかし、ホルモン処理は手間の掛かる重労働であり、交配用のハチも維持管理に労力が必要なことから、生産者の高齢化に悩むナス産地では、着果処理の省力化が課題となっています。そこで、タキイでは着果処理を必要としない「単為結果性」をもつナス品種の開発を進め、2017年には、その第1弾の成果として長ナス「P C 筑陽」を発表しました。今回発表する新品種「P C お竜」は、1980年に発売された長卵形ナス「竜馬」に、単為結果性を付与した品種です。「竜馬」が長年栽培されてきた国内最大の冬春ナス産地の高知県で2018年から促成栽培での試作を実施し、既に単為結果性の高さには良好な評価を得られています。濃い黒紫色で首太の果実が着果処理なしに安定的に収穫できることが最大の特長で、営利栽培だけでなく、コンパクトな草姿を生かしてのベランダ菜園にもおすすめです。



タキイ 研究農場
かわにし たか あき
河西 孝昭

「PCお竜」は、そのすぐれた単為結果性ゆえ、開花した花はすべて着果肥大しますが、その反面、従来の非単為結果品種に比べ着果負担が掛かりやすいという点になります。従って草勢の維持が最大の栽培ポイントになります。

草勢を維持するためには、生育初期にしっかりと根張りを促しておき、十分な量の水や肥料を吸収できるようにしておくことが大切です。圃場づくりの際は、できるだけ深耕して十分に堆肥を施し、保水性を高めておくことで、根が張りやすい環境を整えるように努めましょう。

単為結果性をもつ「PCお竜」の定植適期は、1番花のつぼみが膨らんできた状態のやや若苗の間は、根張りや樹づくりを優先させた栽培管理に努めます。もし活着不良や草勢低下に陥ってしまった場合は、適宜、摘花(摘

接ぎ木は、土壌病害回避だけでなく、草勢維持のためにも有効です。「PCお竜」の着果力を最大限に生かし、良品多収をねらうためにも、接ぎ木栽培を原則としましょう。

追肥は、最初の収穫果実が肥大しはじめたタイミングから開始し、以後は定期的に行います。草勢や収量に応じて、従来品種よりも日数間隔を詰めて追肥することが上作のポイントです。

粒状肥料や液肥による施肥を基本として、低温期や根傷みで追肥が効きにくい場合は、葉面散布や発根促進剤を施用すると効果的です。摘葉は、草勢を見ながら従来品種よりやや遅めのタイミングで実施します。採光性を考慮して、通路側よりも、ふところ側の摘葉を優先します。



↑小葉でコンパクトな草姿の「PCお竜」(高知県にて3月下旬に撮影)。



←側枝の発生が旺盛で花の回転が早いことから、次々と果実がつく(高知県にて11月初頭に撮影)。

ナス特性比較

品種名	適作型	タイプ	果色	肉質	早晩性	収量性	草姿	節間長	葉の大小	草勢	トゲ有無	単為結果性
PCお竜	ハウス栽培 トンネル～露地栽培	長卵形	濃黒紫	中柔	超極早生	多	開張	短	小	中	有	有
竜馬	ハウス栽培	長卵形	黒紫	中柔	超極早生	多	開張	短	小	中	有	無
PC筑陽	ハウス栽培 トンネル～露地栽培	長ナス	濃黒紫	柔	極早生	極多	中開	中	中	中強	無	有

1 根張を促す本圃の準備

2 接ぎ木栽培が原則

4 追肥がポイント

5 低温期の温度管理

1 すぐれた単為結果性
(関連特許出願済)

「PCお竜」の開花時の花には、通常品種よりも高い濃度のオーキシンが自然に含有されており、そのことがすぐれた単為結果性をもたらします。また、高温時期や厳寒期といった着果力が劣る時期であっても、安定して高い単為結果性を発揮できるようになっています。

2 コンパクトな草姿の
超極早生種

「竜馬」と同様に、短節間で草丈が低いコンパクトな草姿で、葉が小さいため、冬場の少日照下におけるハウス栽培でも株のふところ側まで十分な採光性を維持することができます。また、側枝の発生は生育初期から旺盛で花の回転が早く、初期収量が多くなるのも特長です。

3 高い秀品性

従来品種によく見られるような曲がり果や奇形果が少なく、時期を問わず高い秀品率を維持します。また、果実は濃黒紫色でつやがあり、高温期の色ボケ果発生も比較的少ない品種です。

4 やわらかな肉質で
幅広い料理に使える

果実の肉質はやわらかで、「竜馬」同様に幅広い用途で使用できることが特長です。果皮の歯切れもよく、漬物加工にも適します。

適作型

最適作型は6～8月まきのハウス冬春(促成)栽培です。また、半促成栽培や夏秋栽培も可能です。花の回転が早いという特性を生かし、小ナスどり栽培にも適します。

「PCお竜」栽培メモ

最適播種期 (中間地)	促成栽培	7月上旬
	半促成栽培	12月上旬～1月上旬
	夏秋栽培	2月中下旬
適播種期 (中間地)	促成栽培	6月下旬～8月上旬
	半促成栽培	10月上旬～12月下旬
	夏秋栽培	1月下旬～2月下旬
肥料の目安 (10a当たり)	元肥 N：P：K＝20～25：25～30：20～25kg 追肥 N＝2～3kg(1回当たり)	
定植間隔 (促成栽培・ 3本仕立の 場合)	畝幅：200cm 条数：1条 株間：50cm	